

せる動機付けの施策。育児パッケージは受け取る側の気持ちを優先した物を提供したい。

【子育て環境整備について】

問) 保育園待機児童解消にまで追いつかない。努力は評価した上で、待機児の多い「0、1、2歳」対応について今後の見通しを伺いたい。
市長) 新規、既存の保育園にご協力いただき、3歳の壁も含め連携するよう努力したい。

【子育て支援サービスについて】

問) 義務教育就学時医療費助成制度の小学校3年生までの所得制限撤廃を高く評価したい。
市長) 今後できるだけ進めていきたい。

【図書館について】

問) 図書館の一部業務委託が予定より遅れている。スケジュール感をもって進めるべき。
教育長) 光図書館は好評だと考えている。恋ヶ窪、並木、もともちは平成30年実施をめざす。

【健康づくりについて】

問) モバイルサービスを利用した健康増進情報発信事業がスタートすることを評価する。健康診断受診率の低い若者層への活用も可能では。
市長) 来年度からの早期実施に向けて努力する。

【高齢者福祉について】

問) 認知症対策の推進、在宅医療・介護連携相談窓口の設置を評価する。スケジュールは。
市長) 医師会の協力を得て、10月開設めざす。

【障がい者施策について】

問) 西武鉄道国分寺線、多摩湖線、国分寺駅のホームドア設置及び恋ヶ窪駅の内方線つき点状ブロック設置への積極的な対応を評価したい。スケジュールを伺う。大きな財政支出も伴うが鉄道事業者と連携して万全な対応を求めたい。
市長) 従来から西武、JRにもお願いしてきた経緯がある。市の負担は6分の1、平成29年度は予算化していないが、積極的に参加したい。

【ごみの減量・資源化について】

問) 燃やせるごみの総量が多摩地域で2番目に少ないという結果は市民の努力の成果であり感謝すべき。更なる減量施策として、循環型社会をめざし「食品ロスの削減」も有効と考える。
市長) 市民に感謝したい。フードロスの啓発をし、環境まつりでフードドライブも行いたい。

【交通安全について】

問) ぶんバス万葉・けやきルートが順調にスタートした。まちの活性化のために、ぶんバスの果たす役割は大きくなるが、既存ルートが多くの方にご利用いただけるように努力願いたい。
市長) 6路線、たくさん利用していただけるよう努力し、高齢者の足となるようにしたい。

【防災について】

問) 女性の視点を取り入れた防災対策の拡充のためにも女性版「東京防災」を活用すべき。
市長) 女性の視点は必要。市民に広報していく。

【行政改革について】

問) 遂行には職員の力量が問われる。決意を。
市長) レベルアップを図りながら進めたい。

なると考えるが、市長の見解を伺う。市長人を大切にしたいは一貫して通じるものである。市民や市に関わる人が、住んでいて良かったと思えるまちにしていきたい。子どもから高齢者まで、きめ細かな施策を展開していきたい。

●新庁舎の検討は、公共施設マネジメントと一体的に進める必要があると考えるが、新庁舎建設に向けたスケジュールと市民参加の手法は？
市長) 庁舎の位置も含めて、多くの市民の意見を聞きながら慎重にすすめていく。市民参加の手法の検討もH29年度に入ってから行っていく。

●市民活動センターの充実について、これまでも支援の専門性や先駆性といった観点からNPOとの協働など、センター運営のあり方を提案してきた。現在の市民活動センターは、国分寺駅から近いがビルの4階にあり、場所がわかりにくく入りづらさが否めない。北口再開発完了に合わせた場所の移転や、まちづくりセンター・(仮)緑の情報センターと合わせ、それぞれの機能が発揮でき、新たな可能性が見いだせるような一体的な整備と運営のあり方についての総合的な検討を。市長) センターは発展させていきたい。場所や一体的な運営形態は研究する。

●妊娠期からの切れ目のない支援について、母子手帳交付時に専門職が妊婦と面接し、必要な支援プランを作成するゆりかご事業のスタートは大きな前進である。事業をすすめる中で健康推進課と子育て相談室の更なる連携を要望する。また、妊産婦に支給される子育て支援の物品は、子育てに必要なサービス利用も含める等、利用者のニーズに合った制度にすべき。市長) 市内連携は今後とも強めていく。子育て支援の物品支給は、先駆的な取り組みを参考にして検討する。

●学童保育所について、全員入所を前提に小6までの受入も含めた定員拡充と、質の維持向上は？市長) 定員拡充はできる限りやっつけていかなければならない。また、合同事業や研修等でノウハウを共有しながら保育の質を高めていきたい。

岩永) 4年生の長期休暇中の受け入れや年末保育の実施等、民設民営学童保育の弾力的な運用を。

●放課後子どもプランとの連携、総合プラン実施に向けた展望は？教育長) 学童保育所の狭隘と学校施設の利用は市の大きな課題である。教育部と子ども家庭部で昨年協議し、課題と成果等出ている。できる限り学校施設を共有していく。

●外国にルーツのある子どもたちが、自国の伝統や文化に誇りを持ち続けられるような取り組みを。教育長) 国際理解教育で異文化理解、異文化との共生を進める事業を推進していきたい。

●就学援助費の入学準備金の増額と中1の入学前支給は、子どもの貧困対策としても大きな前進である。今後は小1への検討を。また、制服や学用品等の保護者負担の実態を確認し、負担軽減の工夫等、検討を。教育長) 学校納付金調査の結果を精査し、今後の行政に生かしていく。

●戦争体験映像記録の作成については、戦争や被爆体験を次世代につなぐ取り組みとして、期待するものである。子どもや若者が作成に関われるような検討を。市長) 研究してまいりたい。

●障がいのある人の地域での生活支援の具体的な方策は？親亡き後を見据えた支援策と地域でのネットワークづくりを要望する。市長) 相談支

援と、地域自立支援協議会の充実に努めていく。

●空き家バンクの運用が開始されるが、まちづくりの視点や、自治会・町内会の活動支援とも連携し、地域コミュニティ活性化につながる取り組みを市長) 利活用にもついで進めていきたい。

●交通安全計画の策定にあたっては、見守りをされている方など現場をよく知っている市民の意見を聞きながら進めていただきたい。また、教育委員会とも十分連携すべき市長) そのように進めていく教育長) 積極的に関わっていただきたい。

●オープナーの活用や情報公開制度の充実とは？市長) オープナーでの行政資料の配架基準の作成や、配架資料一覧のHP等による公表の準備を進めている。情報公開サイトの周知もはかる。

真の市民自治の実現で、 くらし第一の市政へ



日本共産党国分寺市議団 幸野 おさむ

幸野) ◆議会制民主主義・二代表制◆が問われている。昨年12月議会・一般質問で市長は答弁拒否を行ったが、二度とすべきでない。

市長) 部長や副市長と意見は一致している。代表質問は私が、一般質問は他の人間で答える。

幸野) 一般質問は本会議の場だ。部長や副市長が市長の考えをすべて分かっているなら市長はいらぬことになる。市長が答弁拒否をするなら二代表制は成り立たない。

幸野) ◆総合ビジョン◆は市民とともに策定すべきだ。4年前の市長の所信表明・代表質問では「自治基本条例と日本国憲法を守る」としていたが、その基本理念が国分寺市ビジョンから削除されている。主権者市民の立場に立ち、真の市民自治を実現させるビジョンにすべきだ。

市長) 私は削ったわけではない。日本国憲法と自治基本条例は踏まえているビジョンだ。

幸野) であるならば、具体的な政策が入る国分寺市ビジョン実行計画については、最低でも市民説明会とパブリックコメントを実施すべきだ。

市長) 予算特別委員会の時まで示す。

幸野) 結局、両方ともやらないということだ。「自治基本条例を守っている」とは到底言えない。

幸野) ◆新庁舎の建設場所◆について、市長は「2017年度中に決めたい」と言っているが言語道断だ。12万人市民に情報を提供し市民的な議論を行った上で、住民投票で決めるべきだ。

市長) 多くの方のご意見を聞いた上で進める。

幸野) ◆国分寺まつりの出店拒否問題◆東京弁護士会から人権侵害だと言われている。早急に人権を回復するために出店を認めるべきだ。

市長) 東京弁護士会からの要望を検討している。

幸野) 「自治基本条例と日本国憲法を守る」と言いながら、実際は言葉だけだ。平気で人権侵害を行う市政は大問題だ。

幸野) ◆くらし・社会保障◆を充実させる財源はある。市民生活が大変な中で、消費税の増税分が積立金に回されている。国分寺駅北口再開発の敷地一部売却益も入ってくる。これらの財源

次ページに続く▶

個人を尊重し、人を大事にするまちをつくる



国分寺・生活者ネットワーク 岩永 康代

●今後8年間のまちの姿を描く「国分寺市ビジョン」が4月からスタートするが、全ての市民がいきいきと自分らしく暮らせるまちの実現を願う。そのためには、基本理念にある市民、事業者等とともにまちづくりをすすめ、個人を尊重し、人を大事にするまちの描きが最も重要に

4月からの会派の変更について

会派名変更

変更前：自民党国分寺市議団

変更後：自民党新政会

所属変更

丸山哲平議員（前：国分寺政策市民フォーラム）が自民党新政会へ所属変更となりました。

会派代表者の変更について

下記のとおり会派代表者に変更がありました。

会派名：自民党新政会

代表者：尾澤しゅう

会派名：日本共産党国分寺市議団

代表者：中山ごう